

コロナとウクライナで環境は様変わり クラシック音楽事業の新しい方向を探ろう

ジャーナリスト・元浜離宮朝日ホール支配人 志村嘉一郎

「コロナ3年経済5年」と混乱が続くのではないかと当初、予想していた。コロナは3年で終息へ向かいだしたが、経済はコロナの影響だけでなく、1年前からはじまったロシアのウクライナ侵略戦争で重症になってきた。経済制裁に加え石油天然ガス・穀物などの価格高騰、台湾危機予測からの米中の経済緊張、米国やイスイスの金融機関経営破綻なども加わり、先が見えない事態となっている。ウクライナ戦争が停戦になれば、復興需要で一気に世界経済が回復に向かうだろうが、戦争終結の糸口は見えない。円安が進み日本の消費者も物価高に苦しむ。新しい日銀総裁の登場で長期金利の引き上げなどが期待されるが、あと2年で、経済は回復するのだろうか。

クラシック音楽を取り巻く環境は、コロナで様変わりしてきた。オーケストラやアーチストを海外から招聘するコストが大幅に上昇。国際航空運賃の値上げに加えて円安。東京のオーケストラ公演では、最初発表していた入場料を14%から25%も上げざるを得なかった。音楽ホールもコロナ対策から空席をつくらざるを得ず、高齢な音楽ファンも外出を控えなければならなかった。

名古屋しらかわホール閉館

名古屋のしらかわホールが24年2月末に閉館する。「経営状況や今後の維持・修繕費等を勘案し閉館を決めた」と、理由を公表した。浜離宮朝日ホール開館直後に完成、初代支配人の後藤清氏が朝日新聞社担当の保険営業部長であった縁から、岩城宏之指揮オーケストラアンサンブル金沢のベートーヴェン・モーツアルト・ブラームス交響曲全曲公演や一柳慧書き下ろし一人オペラ企画などを、共同でやってきた。利益を上げている大手保険会社が文化事業から30年で撤退するのは、先行きの経済見通しを厳しく見てくるからであろう。音楽事業への企業の協賛もそれほど期待できない状況

になってきた。企業経営は賃上げや技術開発が優先され、文化事業への協賛は二の次になるだろう。

音楽事業やりにくく時代に

文化事業に必須の公的支援は、今後も期待できるか。財政予算は防衛費や子ども手当などが優先され、芸術支援は減ることはあっても増えることはありえない。文化庁の京都移転は、文化財保護などが注目され音楽事業への目配りは遠のきそう。地方自治体の支援も指定管理者制度の発足で間接的になり、管理者による公営ホールの自主公演も急減してきた。いまほど、クラシック音楽事業者がやりにくく時代はない。

西洋音楽は明治維新後、日本に輸入された。東京音楽学校や鹿鳴館などで西洋音楽が演奏され、小学唱歌集にも西洋音楽が取り入れられた。山田耕筰の登場で、大正期から日本にもクラシック音楽の時代がくる。昭和になり、軍部の台頭で西洋音楽は、敵性音楽として隅っこに追いやられた。太平洋戦争が終わって駐留軍がジャズを持ち込み、1950年代に音楽事務所ができ、民音や労音なども誕生、本格的なクラシック音楽の時代が始まった。

3度目の転換期

明治維新から終戦まで77年。終戦から77年は2022年で、ウクライナ戦争が始まった年。日本がいま近世3度目の転換期にあるように、クラシック音楽も3度目の転換期に来ているのではないか。子ども少数化時代になり、いかにしてクラシックファンを増やすことから始め、最近さかんになっているボランティア団体によるコンサートなどを育てる必要がある。多額な経費がかかる引っ越しオペラや、有名な交響楽団招聘活動による大音楽会より、質の高い演奏家による、こじんまりとした音楽会がこれから増えて来るのではないか。

みんなで、新しい時代のクラシックを考えるときである。



私の仕事

チケット買えなかった子どもたち 公開リハーサルと終了後のスピーチで



横浜みなどみらいホール チーフプロデューサー 佐々木真二

2022年秋の横浜みなどみらいホールリニューアルオーブンシリーズであるボストン交響楽団の横浜公演は、盛況のもと無事に終了した。お客様の入りは少し寂しかったが、迫力ある厚みのあるサウンドは前評判通りで流石3度のグラミー賞受賞、アンドリス・ネルソンスの指揮のもと、マーラーの交響曲第6番の演奏は、熱狂的なスタンディングオベーションで聴衆に称えられた。

本公演はサントリーホール(サントリー芸術財団)との共同主催という形ではあったが、同交響楽団が横浜みなどみらいホールに登場するのは初めてのことだった。「オペラ座の怪人」ならぬ「コンサートホールの変人」のような存在として、98年の開館以来地下の事務室で隠れすごし多くの外来オーケストラの公演を見てきた私としても意外なことだった。当ホールの開館記念コンサートはクルト・マズア指揮のニューヨーク・フィルハーモニック公演だったが、本当はボストン響のほうがふさわしかったのではないかだろうか?などと当時の招聘事情など鑑みずに勝手に考えてしまう。

何故なら大ホールのステージ後ろに聳え立つ、わがホール自慢の堂々たるパイプオルガンは、ボストン近郊の港町で生まれており、また、ボストンの地で高い業績を残した岡倉天心は、横浜出身であるなど、横浜とボストンの関係性は深いからである。当ホール自慢の(ほとんど)ボストン産のパイプオルガン“ルーシー”は、ソロコンサート、オーケストラとの共演、市民に対する音楽ファン層拡大のためにと大活躍、その存在感を全国中にふりまき、かたや岡倉天心は、ボストン美術館中国・美術部長としてボストンを拠点に日本文化をアメリカ中に広めた存在である。時代や人物と楽器という違いがあるとはい、「横浜とボストンには相互の文化に影響を与えた交流が存在している」などと自分なりの解釈をしてしまうのであった。そのようなわけで、共催という形ではあるが、当公演の開催は横浜にとって有意義であった。

リハーサル見学プログラム

さてこの度のボストン響は横浜にどんな恩恵をもたらすであろうか?それを考え活かしていくのが、事業企画を担当する私達の使命である。もちろんリニューアルしたばかりの横浜みなどみらいホールのステージで、改修前の賑わいを取り戻す如くボストンのサウンドを響き聞かせ、音楽ファンを喰らせる・・・、という事も大事だが、もう少し幅広い層と音楽の素晴らしさや楽しさを分かち合いたい。そう思って企画したのが、中高生を対象とした「リハーサル見学プログラム」であった。圧倒的で美しいボストン響のサウンドに刺激を受けた子どもたちは、きっとこれからいろんな夢を思い描くに違いないと。そしていよいよボストン響とサントリーホールの厚意で、横浜の中高生のための「リハーサル見学」が実現することになった。日本に到着したばかりで大事な最初のリハーサルの時間だったのに、楽団側やサントリーホールが快く受け入れてくれたのである。

公開リハーサルの工夫

最近では、中高生に限らず一般対象の公開リハーサルも珍しくなってきてている。恐らくそれが独自の手法で実施していると思うが、さて今回の中高生たちにはどうしようか?ただ漠然と聞いて、「凄かった!」だけでも得られるものはあるのだが、でももう一つ何か子どもたちの興味を深化させる触媒のようなものが欲しい。そこで、演奏者や演奏曲の予備知識を持って参加してもらうよう、この公開リハーサルのための独自の「ガイドブック」を作り、当日配布ではなく事前に子どもたちに郵送することにした。

公開リハーサルは、そこに至るまで些細なアクシデントはあったものの、無事に開催した。そしてその些細なことの一つ、急遽オーケストラのスケジュールが変更となり、リハーサルの開始が30分早まってしまうことになる。しかも海外オケのリハーサルなので、サッと短くすませること



も多い。見学希望者には遠方からきて時間ギリギリという子どもたちもいるので、着いたら終わっていたではたまらない。そこで「公開リハーサル終了後、ステージ上で横浜の子どもたちに向けてスピーチをしていただけませんか?」とオーケストラの事務局へ投げかけたところ、流石ボストン響の事務局、快諾してくれたのである。

リハーサル開始直後、ステージ裏に待機中のスピーチを担当するボストン響 Artistic Administrator の Anthony Fogg 氏のところへ通訳さんを伴ってずうずうしくも押しかけた。「今日見学に来ている子どもたちは、ボストン響の演奏を本当に楽しみにしている。ボストン響の魅力を子どもたちにスピーチしてください。」「事前配布したプログラムにも書いたが、アメリカは景気が悪いときこそ文化芸術の力で社会を明るくしようとする気風がある。残念ながらこちらは景気が悪いとまず文化芸術が切られるという傾向がある。この公開リハーサルに参加した子どもたちに、文化芸術の大切さを感じて欲しい。」と続けさまに伝えたら、「タンブルウッドの支援が打ち切られて・・・」と言いながらも話してもらいたいスピーチの趣旨を理解してくれた。別れ際に「きっと今日参加の子どもたちの誰かが、そのうちIT長者になり、でも文化芸術の大切さは忘れずにいて、ボストン響の来日公演に 100 万ドル寄付してくれるかもね」と相変わらず馬鹿なことも言うのも忘れずに・・・彼は「にやり」とした。

音楽の素晴らしさを伝える機会

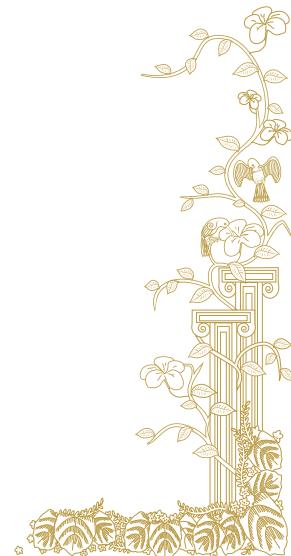
公開リハーサルは成功であった。多くの子どもたちが感動を胸に帰宅して行ったに違いない。しかし後に私にとつて非常にショッキングなできごとが待ち構えていた。

横浜公演後のボストン響の演奏会は各地で盛況なのかな?と思い、めったに見ないツイッターを検索してみた。そこで愕然としたツィートを発見、それは「横浜の公演で、公開リハーサルに遅れてしまい参加できなかった子どもが、どうしても公演を聴きたく当日券売り場に並んだけど、所持金がたらずについで帰っていた」というものだった。しかも 2 人ぐらいいたという。一番安い席なら買えるはずと思って並んだけれど、残念ながら売り切れだったのだ。安い席といつても 13,000 円、子どもでなくとも大金である。きっと一大決心が必要だったに違いない。その子どもたちは

公開リハーサルに間に合わなくて、どうしても、どうしてもボストン響の演奏が聴きたかったのだ。もちろん事前にしっかりと料金を支払って購入している人たちがほとんどだし、公平性の観点からいうと仕方なかったことではある。でもそんな理屈はどうでもいい。私は少なくとも 2 人の子どもたちを落胆させ、失望、虚しさを与えてしまったのだ。この出来事がこの子たちの胸にどんな風に刻まれるのだろうか。社会経験の一つと言ってしまえばそれまでだが、しかしせっかく音楽に近づいてくれた子どもたちを締め出してしまったのである。出来る事なら会って謝罪したい。そしてもう一度音楽の素晴らしさを伝える機会をもらいたい。

やさしい社会をめざして

現在、池辺晋一郎氏にかわり、当ホールの新館長として新井鷗子氏が就任している。一度定年となった OB 職員の分際でこのようなことを言うのはおこがましいが、新井氏の企画には色がある。しかも明るくやさしいパステルカラー。そう新井館長は、きっと音楽でやさしい社会をつくろうとしているのだ。これから横浜みなとみらいホールの事業は館長の色が活かされてくるはずである。私は肝に銘じなくてはならない。あのときチケットを買えなかった子どもたちのことを。やさしい社会をめざして。





書籍紹介

魂の言語 をさとした作曲家

山田耕筰 「音楽の法悦境」

元 パルテノン多摩 音楽プロデューサー 梅津知美

私の手元に一冊の本がある。出版は大正 13 年、イデア書院（現玉川大学出版部）より上梓された。今でいう A5 版に近く布装丁金箔箱入りの豪華版。著者はわが国で最初に交響楽団を作った作曲家・指揮者の山田耕筰。書名は「音楽の法悦境」という。残念ながら、絶版でネット上での検索にもかからない。ウィキペディアで、かろうじてタイトルの 1 行記述あるのみ。

そんな希少な本なら内容を細かに解説するのが親切というものだろう。しかし、この紙面に述べるのにはあまりにも文字数が足りない。本文には作曲家山田耕筰が如何にして音楽に目覚めたかに始まり、クラシック音楽の魅力ばかりではなく本人の豊富な体験をもとに縷々述べるにとどまらず、新たな発見をも記している、名著だ。童謡「赤とんぼ」の旋律をして日本語の音律と一致していなければならぬ、という話はあまりにも有名だが、他の唄の詩と楽譜を例記して丁寧な解説も盛り込まれている。

今回は、この本のなかにある山田耕筰のユーモアたっぷりの引用を紹介しよう。本文は旧仮名遣いと当時のカタカナ表記による欧米語を現カタカナで、独断で変換していることをお断りしておく。本文 203 頁。

以下は Musical Courier 誌に、A Symphonic Syllabus と題して、私の友人グスター・クレム君が一流の皮肉を並べていた。左にその一部分を翻訳しておく。(本文は縦書き)

シンフォニーとはどんなものですか？

未発表のピアノ・ソナータをオーケストラにアレンジしたものです。

シンフォニーで音詩（交響詩）との区別は？

十五分かかるか、二十分かかるかだ。

音詩というものはどんなものです？

迷子になったシンフォニーさ。

何故シンフォニーはいくつもの楽曲に区分されているのだろう？

木戸番が儲かるように。

シンフォニーの各楽曲（楽章）を何で区別するのか？

咳払い。

一番いいシンフォニーが書かれたのは何時だろう？

四本目の酒瓶が空になってから。

シンフォニーを書くとき一番先に何をしたらいいだろう？

指揮者に晩飯をご馳走することだ。

二番目には？

一番口の悪い批評家にライ麦酒を 1 クオーターもやればいい。

シンフォニーは通常どういう風に終わるのか？

外套預場（クローケ）へ駆けて行くことで。

シンフォニーはたいていどのくらい長いのか？

あまりに長い。

ヴァイオリンを弾くのがヴァイオリニストなのに

シンバルを鳴らす男をシンバリストと言わないのは？

きまりきってらあ（アルマ・グルックを見よ）

【アルマ・グルックは、ルーマニア出身のソプラノ歌手。ユダヤ系。ドイツで活動した後、アメリカ合衆国に移住、オペラ歌手として華々しい成功をとげた。レオポルト・アウラー門下の名ヴァイオリニストエフレム・ジンバリストと結婚し、2児をもうけ、内臓疾患により急死するまで穏やかな家庭生活を築いた。ウィキペディア】

何故近代の作家はたいてい皆ハープを使うのだろう？

体裁がいいからさ。

フランス人がサクソフォーンをオーケストラに使うのは？

ドイツ人が使わないからだ。 (以下略)

「あとがき」も「解説」もなく締め括られた 248 頁の文末には 20 世紀を代表するアメリカのダンサー、イサベラ・ダンカンによる舞踊を我が国の能とくらべた感想を述べ、以下のように結んでいる。

ダンカンの所謂「魂の言語」を表現し得る時の来たらんことを、私は秘かに待ち望んでいた次第であります。



音楽業界の新時代に期待

サロンコンサートへ回帰か

吉岡志真

リスト国際ピアノコンクール最高位の嘉屋翔太は音楽大学に入学してから本格的にピアノを始めた

コロナ禍で演奏の機会が減った音楽家たちはCD制作やオンライン配信へと仕事の場を拓げている。その中核は若手演奏家たちだ。

彼らはSNSを駆使して独自の方法でプロモーションをおこなっている。

再現芸術としてのクラシック演奏の枠からはみ出して、楽譜に忠実ながらさまざまな解釈を試み、新しい時代に向けて舵を切っているようだ。

二〇二〇年以降日本人演奏家が国際音楽コンクールに上位入賞して話題をさらった。それぞれのアーティストはセルフプロデュースに余念がない。反田恭平はNEXUSの代表取締役としてジャパン・ナショナル・オーケストラを組織する。チエロ上野通明はドイツのマネジメントと独自の企画案を練る。ピアノ角野隼人はユーチューバーピアニスト。

アーティスト公演が当たり前になり興業として成果をあげた。公立文化施設として多くのホールがオープンして、クラシック音楽のすそ野は広がった。

そして、今また、新時代を迎えようとしている。

クラシック専用の音響設備を備えたコンサートホールから、お客様の顔がみえるコミュニティ主体のサロンコンサートへ回帰していくと思う。

いこなず演奏家が人気者として台頭していく。

二十代から三十代の若い演奏家たちがそれぞれの価値観の中でクラシック音楽に向き合っていく。個の発展のひとつのかたちがここにあるだろう。

一九七三年に一ドル三六〇円の時代から変動相場制へと移り日本経済は大きな波へと飲み込まれ、音楽家を志す者は皆、海外留学しCDが名刺代わりとなつていく。

邦人クラシック音楽会といえども自主公演という時代から、招聘ものと同様にスポンサー付きの邦人

野島稔ベートーヴェン・ライヴ



この度、昨年5月9日に76歳で亡くなった野島稔のライヴCDを発売しました。

野島は日本を代表するピアニストですが、録音はあまり残されていません。完璧主義者の野島が生きていたら拒否されるであろうと想像されましたが、彼の才能と音楽を多くの方に認識していただきたいと思い、発売いたします。

新譜紹介

演奏：ピアノ／野島 稔

指揮／山田一雄

管弦楽／札幌交響楽団

収録：北海道厚生年金会館大ホール（1989.11.20.）*

厚木市文化会館小ホール（2008.11.1.）

曲目：ベートーヴェン：ピアノ協奏曲 第5番「皇帝」*

ピアノ・ソナタ 第19番、第11番、
第13番、第32番

発売元：株式会社 キングインターナショナル

販売日：2023年3月20日

カタログナンバー：KKC-095/6(2CD)

価格：オープン価格

アルバム名称：野島稔ベートーヴェン・ライヴ(2枚組)



私の仕事

エンタテインメントをもっと身近に グッズ付きチケットやトレーラーで販売



ロングランプランニング代表取締役 横松 大剛

2019年12月に発生した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)により、我イベント業界は大きな影響をうけました。開催自粛や緊急事態宣言などの制限により、公演回数は激減し、市場規模は2019年から2020年に約8割が消失したといわれています。

感染予防対策に必要な商品が品薄となり、販売価格が高騰したことから、弊社では2020年の7月に電子体温計やフェイスシールド・接触確認アプリの案内などを含んだ対策セットの無料貸し出しにより興行支援を行い、のべ267団体の方にご利用いただきました。またチケット購入者の方へもご希望のあったすべての方に、フェイスシールドを無料配布し、お客様が不安な心境へ対応していきました。どのような対策が適当であるか不明確であった当時にくらべ、現在では適切なマスクの着用や発声の制限などの感染防止策を講じることにより、入場者数の制限は緩和され、制限を設けてではありませんが声だし公演の開催をおこなうことも可能となってきていますが、完全に元通りになるのはもう少し先のことになりそうです。

広がりをみせる配信事業

世界的なパンデミックによって、イベントのほぼすべてがキャンセルになった未曾有の状況において、自宅で公演を楽しむという配信事業はあつという間に一般的なものとなりました。当初は、無観客という状況を開拓するための苦肉の策として生まれた配信というスタイルでしたが、現在ではイベントに欠かすことのできない存在となり、会場に足を運び生でエンタテインメントを体験するのとは別

経験をお客様に提供するため、配信を意識した演出を凝らしている公演も増えてきています。

弊社におきましても「どこにいても、身近にライブエンタテインメントが楽しめる世界を作りたい。」という想いから、2020年10月にライブ配信サービス『Confetti Streaming Theater(カンフェティストリーミングシアター)』を立ち上げ、主催者さまからの要望にこたえるべく様々なサービスをご提供しています。

その1つが視聴者から応援アイテムを送ることができるギフティングです。以前からSHOWROOMやYouTube LIVEなど投げ銭が可能な配信サービスはありました、公演チケットを購入すると同じように、プレイガイドからチケットを購入し、配信を視聴するとともにギフティングをおこなうことが出来るサービスはありませんでした。ミュージックビデオやアーカイブ映像の配信とは異なり、ライブ配信をおこなうのであれば視聴者とのリアルタイムなオンラインでのコミュニケーションが重要となります。大規模な公演であれば副音声の同時配信、複数のカメラによるスイッチングといった映像の演出が重要となってくることもあります。小規模な公演の場合、チャット機能による視聴者との対話やギフティング(投げ銭)が重要となります。

出演者ごとに異なるグッズ

また、特典グッズ付きチケットの販売も、いち早く導入しました。これにより配信では実現できなかったグッズの購入をチケット販売と同時におこなうことが出来るよう



なりました。コロナ禍の以前からご要望により、応援する出演者を選んでチケット購入にも対応していた実績があつたため、出演者ごとに異なるデザインのグッズを配送することにも対応しております。ご要望がございましたらグッズのデザインや製作も対応可能です。夏休みに動画を見ながら自宅で自由研究を作るといった用途に使用していただくこともありました。

カメラやエンコーダーといった配信機材の無料レンタル。JASRAC、NexToneへの著作権楽曲申請の代行および支払いについても弊社で負担させていただき、今まで配信をおこなったことがない主催者の方へもサポートをおこなっています。

渋谷・丸の内・浅草・天神などに出店

「TKTS」はニューヨークのタイムズスクエア、リンクセンタードウェイやオーフブロードウェイの公演チケットを、当日・翌日分限定で割引販売しており、繁忙期にはオープン2時間前から店舗前行列ができ、1日に7,000枚ものチケットが売れる日もあるほど、ブロードウェイ観劇のインフラとして根付いている、ブロードウェイ・ミュージカルを語るには欠かせないサービスです。

弊社は、2019年にアジアで初めて「TKTS」ブランドの使用を公認されました。渋谷ハチ公前の SHIBU HACHI BOX 内や丸の内 KITTE などの一等地、浅草文化観光センター、新宿観光案内所などの観光案内所施設。関西にはあべのハルカス、福岡には天神の観光案内所内に出店しています。

昨年6月には「エンタメのまち、新宿へ行こう」の企画の一環として、TKTSトレーラーを「JR新宿駅東口駅前広場」に期間限定で出店し、ご好評をうけて改めて10月20日～11月24日の5週間に渡って出店をしました。開演直前までの販売、ディスカウント価格という特徴で、どんな方にもライブエンタテインメントをもっと気軽に楽しんでいただける世の中を作り、「今日公演を見に行こう」を当たり前にすることをミッションとしています。今後も変化し続ける社会情勢を注視し、新しいサービスを提供できるように努めてまいります。

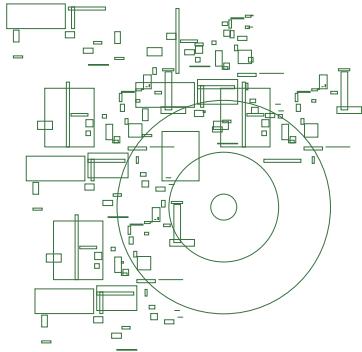
This is a promotional graphic for an event. At the top right, it says 'SHINJUKU EAST'. The main title 'エンタメのまち、新宿へ行こう' is displayed prominently in red. Below it, 'tkts in SHINJUKU' and '#エンタメのまち新宿' are written. To the right is a photo of a TKTS mobile ticket booth. Below the main title, there's a large red circle containing the text '6月2日㈭～6月30日㈮ 11時～19時 新宿東口駅前広場' and '期間限定!' (Limited time). At the bottom, there's small text about sponsors like JR East, Shinjuku Tourism Association, and Long Land Planning Co., Ltd.

※昨年6月のイベント案内

https://www.kanko-shinjuku.jp/event/-/article_3246.html



私の仕事の経歴



原盤を制作し世界で勝負 私のレコード修業時代

タクトミュージック代表 野島 友雄



私は 1970 年代に、念願かなってビクター音楽産業（現 JVC ケンウッド・ビクターエンタテインメント）の洋楽部に配属されました。

そこではチェコやルーマニア、その後ロシアのメロディアから提供された原盤の日本向け発売と外国人アーティストのレコーディング制作を担当しました。

クラシックではマイナー

そのころビクターは海外メジャーを契約先に持つ大手とは異なり、大ヒットを望めるような新譜発売は難しく、クラシックにおいてはマイナーでした。従って売り上げより質。専門誌などの高い評価や芸術祭などで賞を取ることが崇高なる仕事であるとの風潮が根付いており、クラシックは文化だ！との考えでした。

しかし会社自体はピンクレディーやサザンなど数々の大ヒットを飛ばし正にトップ争いのレコード会社で、カッコイイ同僚ばかりです。その隅っこでクラシックが結構デカイ顔が出来ていることが恥ずかしく、何たって売上あってこそでしょう、と思うのは当然の成り行きでした。

暗澹（あんたん）とした日々が続く中で私はいつしか、何とかして数字で争うような世界で勝負したいと思い、ライセンスではなく原盤を制作するという明確な方針を立て、その実現のために良い音楽家探しをすることに徹しました。こうすれば日本人が聴きたいと思う企画や新ジャンルでのチャレンジも出来ます。またライセンス料を支払うことなく利益率も極めて高くなる。自然と私は気になるコンサートには必ず出かけるようにし、加えて専門誌や雑誌の編集者、それにレコード業界仲間との飲み会に積極的に参加し、情報を集めに出ました。

こうした私の多くの原盤制作の中で特に売り上げに貢献したものと思い出してみます。

1977 年

この時代はたとえ教育プログラムであっても日本人アーティストでは売れない時代。そこで外国人ピアニストで誰もが知るピアノの小品曲「乙女・エリーゼ」を録音。子供にこそ質の高い音楽を聴かせるべきです！をテーマに新聞を中心に戸別配達でヒット。

空前の大ヒット

1986 年

私にとって空前の大ヒットに恵まれました。

前年 85 年 10 月、ショパンコンクール優勝に輝いたブーニンのショパン・コンクール・ライブです。これは NHK の放映を見た日本人が心から LP を買ってでももう一度聴きたいと思った演奏でした。これは売れるかと確信した私は直ぐに原盤を持つポーランドの会社との交渉に当たり運よく成功し、LP と浸透し始めた CD とカセットの 3 アイテムで発売しましたが、会社中の電話がブーニンの問い合わせで大混乱したほどの大ヒットとなりました。

1988 年

馴染みのない意外な楽器で人々の注目を集めようと考え、チェロにたどりつきました。時間をかけて多くのチェロのコンサートに出かけ当時まだ 10 代の才能豊かで既にコンチェルト・デビューも果たしていた長谷川陽子さんを見つけました。大きな楽器を若いお嬢さんが豪快に、はたまた優美に弾きこなす姿は大きな話題となりクラシック・チャートの上位に何度も登場し数々の名盤を制作しました。

14 歳の少女が大ブレイク

1993 年

トヨタやカゴメの CM への出演もあり、大きくブレイクした村治佳織さんとの契約です。まだ 14 歳であった彼女のギターを聴きその驚異的なテクニックに驚き、それがギターであるという意外性にこれはいけると思った瞬間でした。間もなく美少女、女子高生に会社や業界から見ればヒッ



ト間違いなしの状況で、私は売上などよりマスコミから彼女自身を守るのに必死だったのを思い出します。

1999年

一部に熱狂的ファンを持つ川畠成道の存在を耳にしました。ピアニストの肩を借りてステージに現れると静かにヴァイオリンを弾き始めました。全てのお客さんがステージに向かい前めりで固まっています。この演奏に潜む魔力を感じました。彼は目にハンディーを持っていたのですが、その神聖な音楽は日本人の感性に強く訴え「徹子の部屋」をはじめ多くのTV、紙媒体に露出、村治佳織に次ぐ大ヒットシリーズになりました。

キューバでレコーディング

2001年

ギター専門誌にキューバのコンクールで賞を獲得したギタリストがいるとの情報を得ました。たまたま私がパリで

レコーディング中、このパリ留学中の大萩康司の演奏を聴いて日本人のギタリストからは聴いたことの無い郷愁、サウダージを感じ、この音色で女性たちを虜にできると直感、その魅力をダイレクトに伝えようとキューバ・レコーディングを決行。キューバ？？が見事的申し他のギタリストとの差別化に成功、常にコンサートは女性たちで埋め尽くされました。これらは今となっては通用しそうもない時代遅れの楽しかった私のレコード会社での話です。

エジソンの蠅管から145年、音楽再生はSP→LP→CD→サブスクリプションと今や究極の手軽さです。しかし最近アメリカではLPの売上がCDを上回るようになり、音楽を聴く手間がロマンになってきたようです。私は音楽に飢え、努力に努力を重ねて聴く喜びを知るアナログの時代の音楽再生が好きです。



大萩康司 (2007年ころ)



鼈甲の眼鏡



中根俊士

昨年は多くの知人友人を見送った。その数は十指に収まらない。武漢ウィルスに院内感染して亡くなった方もいた。そんな歳回りなのかと思いつつ残念なことである。

中でもピアニストで東京音楽大学学長であった野島稔の死は衝撃的だった。

がんであることは聞いていたが、亡くなる3ヶ月ほど前に電話で「コロナのためお見舞いには行けないけれど、退院したら

横須賀に会いに行くよ」と言うと、「うん、そうして」と元気そうに話したのが最後となった。彼のピアノは素晴らしい、日本が世界に誇れる、唯一のピアニストだと思っている。学長でありながら、毎日一人倍練習していた。木曾音楽祭に来た時も夜遅くまで一人残って練習をしていた記憶がある。

野島には音楽以外にも好きなものがあり、それがお洒落だった。洋服にも凝っていて、自分なりのスタイルを持っていた。一緒に銀座のテーラーに行ったことがあり、そこで何着かのスーツを作っていたようだ。私はもっと派手な色のものを着れば良いのにと思っていたが、職業柄と自分の趣味でか、真面目なダークスーツが多かった。

ある日、私が「最後には鼈甲の眼鏡をしてみたい」と話したところ、「使ってないのがあるからあげるよ」と言われ大いに期待をしていたら数日後、「どこを探してもないんだよ～」と言われ、ガックリ！した。仕方ないか、そんな甘い話はないと言反省したが、まだあきらめてはいない。

眼鏡屋に、「洋服はいくつも持っているのに、メガネは一つ」という人がほとんどだと言われ、服に合わせて何種類かのメガネも作った。旅に出る時は必ずスペアのメガネを持参している。金縁のメガネもいくつか持っているが、そのうち鼈甲の眼鏡を手に入れようと思い続けている。



私の仕事の経歴

贅沢な企画で壮観な時代 民音と私



元 民主音楽協会 口中 常嘉

民音（財団法人 民主音楽協会）に、42年間、勤めました。
その時の話です。

昭和44年（1969年）8月5日に、民音に入社しました。当時、私は京都に住んでいましたので、配属は関西民音です。入社当初は、先輩について、クラシック企画のアシスタントと、月刊民音ニュースの西日本版の編集、音楽教室の担当をしました。ところが、その1年後、先輩が急に辞め、クラシック企画全部が私の肩にかかってきました！なんという重積でしょう、当時23歳の若造です。

さまざまな「地域コンサート」

その後、徐々に忙しくなり、最高の時は、1年間で、学校コンサートを含め120回ものコンサートを企画遂行しました。

担当になってすぐ「地域コンサート」を始めました。今まで、大阪のフェスティバルホールや厚生年金会館でやっていたコンサートを、地元でも下駄ばきで行けるコンサートです。創立者の理念でした。

当時、家を売ってストラディヴァリウスを買い大きな話題となっていた辻久子さんを起用し、吹田や高槻、島本町や、寝屋川など各地50か所で開催しました。司会も入れて、小さい頃からの辻さんの写真をスライドに映したりの演出で大好評の公演となり、成功裏に終えることができました。それから、「地域コンサート」は、延原武春率いる大阪テレマン・アンサンブルでヴィヴァルディ「四季」、リコーダー奏者の北山隆による、にんじんの笛や、リコーダー協奏曲。ほかに、室内オペラ「赤い陣羽織」や、大阪フィルの首席奏者で結成した「大阪木管ゾリストン」など、さまざまな公演を企画して、毎年10か所ほど巡演しました。

素晴らしいオーケストラ

オーケストラ公演は、年6回くらい。多い時は、京阪神+西宮など各地をまわり、同一演目で4公演も開催しました。当時、私は秋山和慶さんがお気に入りで、全公演の3割くらいは秋山さんにお願いしたものです。

初めは、何も分からなかったので、大阪フィルの小林さん、梶本音楽事務所の熊本さん、黒川さんには随分助けても

らいました。

オーケストラで印象深い思い出があるのは、朝比奈隆先生で、マーラーの「千人の交響曲」、秋山さんで、ヴォーン・ウィリアムズの「海のシンフォニー」、小澤征爾さん指揮・サンフランシスコ交響楽団（1975年）などです。

民音のオーケストラ・シリーズでは、ヴァイオリニの巨匠パールマンによるメンデルスゾーン、チャイコ夫斯基の協奏曲。オーストリアの名ピアニスト、アルフレート・ブレンデルがベートーベンの「皇帝」を披露、アメリカからは同じく名ピアニスト、アンドレ・ワツを迎えて、チャイコフスキイ協奏曲第1番。それぞれ豪華なキャストが並んだ年があり、現在では考えられないほど贅沢な企画は、まったく壯觀でした！

名ソリストたち

ソリストも、当時は、民音で直接招聘することが少なかつたので、梶本、神原、高柳等の音楽事務所から、前出のブレンデル、パールマンに加え、モーリス・アンドレ、フランス・ブリュッヘン、ラドウ・ルプー、アンヌ・ケフェレックなど初来日公演を関西では民音で主催出来たのは懐かしい思い出です。

マルタ・アルゲリッチのピアノ協奏曲の夕べを企画したときの事ですが、指揮者でご主人のシャルル・デュトワと公演前日に大喧嘩し、そのまま帰国してしまうという事件があり、コンサートをキャンセルせざるを得ないという珍事もありました。

小澤征爾公演の思い出

関西時代の一番の思い出は、1973年（昭和48年）12月14日、大阪フェスティバルホールでの小澤征爾／桐朋学園オーケストラの公演です。

その日、関西地方は大雪に見舞われ、東京から来るオーケストラメンバーは、関ヶ原で新幹線が立ち往生！なかなか大阪まで到達出来ません。それでも、なんとか進んで来たのですが、開演時間にも、開演1時間経っても、到着しません。桐朋学園の齋藤秀雄先生は前日、広島でのレッスンを終え、



すでに大阪に入られているので、舞台袖で一人ヤキモキ。このコンサート・民音と梶本の共催・経費折半でしたので、午後8時になって、梶本の熊本さんと私がステージに出て経過説明とお詫び。「何とか今向かっているので、もう少しお待ちください」と平身低頭。しかし結果的には、ほとんどのお客様に待っていました。ようやくメンバーも到着し、コンサートが始まったのが、8時45分でした。終演時間の制限を考えて一曲目に予定していたモーツアルト「リンツ」はカットし、ラヴェルの「ダフニスとクロエ」第2組曲と、R.シュトラウスの「ドン・キホーテ」チエロ独奏は、堤剛。ヴィオラは、安永徹。それぞれ衣装は、新幹線のなかで着替えたとのこと。

終了したのは、午後10時半を過ぎていました。それから、梶本尚靖社長の招待で、レストランで食事。斎藤先生、小澤さんとお母さん、堤さんご夫妻、私と12/2に結婚したばかりの私の妻（民音で受付・経理でした）。帰りはタクシーで枚方まで帰りました。

民音の直接招聘は、1965年(昭和40年)から始まりました。もちろん、東京の本部で担当しています。

私が民音に採用されて東京で研修を受けている時に、初めてのオーケストラ招聘となったズービン・メータ指揮／ロサンゼルス・フィルが来日公演しました。

民音世界バレエ・シリーズも、1966年のソ連・ノボシビルスク・バレエ団から始まり、私が入社してから担当したのは、71年のギニア国立ジョリバ・バレエ団、72年パリ・オペラ座バレエ団、73年シュツットガルト・バレエ団(ドイツ)、英国ロイヤル・バレエ団と続きます。また、75年には、アンドレ・プレヴィン指揮／ロンドン交響楽団。チヨン・ミヨンフンがピアニストとして登場しました。特に、74年9月、バイエルン国立歌劇場来日公演で、カルロス・クライバーが登場した時は、大きな衝撃でした！

毎年夏には、ブルガリア、チェコ、フィンランド等から少年少女合唱団の来日公演もありました。ツトム・ヤマシタの「レッド・ブッダ」世界初演も懐かしい思い出です。

関西時代だけで紙面が尽きました。東京時代は、また機会があれば続きを書きたいと思います。

音楽プロデューサー協会活動の記録

音楽プロデューサー協会が発足し20年の記念号として、本会報「音の葉」の前号Vol.15は2020年1月に発刊されました。その後から突如新型コロナウィルス感染症の拡大が始まり、緊急事態宣言が発出され、世の中の状況が一変。あれから3年。当協会の例会も中止4回と開催が不安定となり、慣れないリモートでの開催も試みました。その間も今クラシック音楽業界にある問題意識を共有するべく、例会開催を継続してまいりました。以下、前号以降の3年間の当協会の活動、例会の記録の一部です。

2020年
3月

31日、国会内の超党派で作る文化芸術振興議員連盟(衆議院第一議員会館第2面談室)へ「新型コロナウィルス感染拡大に伴うクラシック音楽業界への支援について」要望書提出
連盟の副会長斎藤鉄夫氏、事務局長浮島とも子氏に面会。中根俊士 江藤昌子 橋本伸一郎

びわ湖ホールプロデュース
ワグナー「神々のたそがれ」無観客上演について
上野喜浩(京都市交響楽団)

6月・9月 音楽業界へのコロナ影響等の討議

11月 有料配信のパッケージサービスについて
株木政人氏 熊谷洋幸氏(ロングランプランニング)

2021年

3月 (リモート)自身のお話し 吉岡志真(株式会社たつみ)
9月 キャッシュレス、チケットレスへの対応が迫られる時代についての問題提起
丸田朗(マルタミュージックサービス)

10月 レコーディングの歴史とメディアの変化
自身のお話し
野島友雄(タクトミュージック)

11月 横浜みなとみらいホールでの企画制作について
佐々木真二(みなとみらいホール)

12月 民音時代とNPO法人立ち上げのお話し
口中常嘉(NPO法人「音」を「楽」しむONGAKUの会)

2022年
3月 ネット時代の今、音楽専門誌に求められること
向後由美(弦楽器専門雑誌サラサーテ)

5月 野宮珠里著「新芸とその時代—昭和のクラシックシーンはいかにして生まれたか—」を話題の中心に戦後の日本のクラシックシーンの黎明期にトップランナーであった新芸術家協会の位置づけと後発マネジメントの台頭について
薮田益資(クラシックニュース) 寺田有佑(日本アーティスト)

11月 クラシック業界の現状を交えて
今のテレビ界の状況について
村田亨(テレビマンユニオン)



若い世代に 新たな動き

もう、丸三年になる。

東京では、いまだ多くの人々が街中でマスクをしている。さすがに、演奏会舞台上でマスクをかける人はほとんどなくなったが、まちがいなく歴史に残る事態である。

その間も一時を除いて当協会の例会も細々と続いているが、この会報も2020年の20周年記念号以来のご無沙汰となつた。

クラシック音楽の業界はひところの華々しさに欠けて勢いが足りない観があるものの、若い世代を中心新たに動きもみられる。

古くは歌舞音曲と蔑まされた音楽が、立派な教養として受け入れられ、百年が過ぎ、世界の一流が我が国のあちらこちらで聴くことが出来るようになり、この半世紀では、権本音楽事務所やジャパンアーツ、神原音楽事務所などが中心に業界で大躍進をした黎明期を経て、さらに新たな時代を迎えることになる。

一世を風靡したラジオやテレビ、新聞といった大メディアも、すでに過去のものとなりつつあり、インターネットの普及や、AIなどといった技術の進歩とともに古い価値観が駆逐されて未来の価値観が期待されている。

クラシック音楽はいまだに三百年前の楽譜やストラディヴァリに代表される骨董品を尊びながら時代に取り残されてゆく運命なのだろうか。

否、クラシック音楽は、人類の普遍的な財産として認められ、今後も継続的に継承されてゆかねばならない文化である。

しかし、そこには大きな問題がある。世に言う「価値観の二極化」である。

本当に二極化が進んでいるのだろうか。

私は幼い頃から、教育という洗脳を受けて、二極化の思考方法が身についてしまってい

る。学校の試験では正解と不正解、倫理的にも正義か悪か、感覺的にも良いか悪いかで世の中を見てきた。

だが、実際は正邪を極め難い問題も少なくない、と気がつく時にはすでに結構な大人になつていて、「考える」とは「どちらが正しい」のか、正解を得ることだ、と思うようになる。巷に「右か左か」を問う内容が多い。

(編集者)

らが正しい」のか、正解を得ることだ、と思うようになる。巷に「右か左か」を問う内容が多い。音楽の世界でも、良い演奏、悪い演奏と極端な評価が闊歩し、挙げ句の果てには儲かるか儲からないか、といった音楽的な評価と別に評価がくだされたりもする。

良いか悪いか。多くは、そのどちらでもない。冷静に考えればだれでも判ることなのに、それが世の中だと思はばならない文化である。

新聞やテレビなどでは、未だに世界の価値観が極端に二極化しているような論法で迫つているようだが、一方で今までの価値観が通用しない新しい価値観がこれからの世の中だという意見も少數ながらチラホラと出てきた。曰く「コロナ禍を経て新たに覚醒した人々が世の中を動かす時代がやってくる」。

最終的には好きか嫌いか、といった先入観が最も強く表れる、音楽の世界。表現の世界もどんどんと変わってゆくのかもしない。

2023年4月 音楽プロデューサー協会発行 編集:志村嘉一郎 デザイン:梅津知美

音楽プロデューサー協会会員

上野喜浩 (公財)群馬交響楽団 音楽主幹
梅津知美 元パルテノン多摩 音楽プロデューサー
江上裕 (同)エガミ・アートオフィス 代表社員
(一社)愛知室内オーケストラ 事務局長
江藤昌子 こぶしくらぶ 主宰 プロデューサー
兼岩好江 (株)アルシュ(オフィスアルシュ) 代表取締役
日下公久 日本芸術育成学院(NANA) 事務長
口中常嘉 (特)「音」を「楽」しむ ONGAKUの会 理事・事務局長
榑松大剛 ロングランプランニング(株)
(カンフェティ) 代表取締役
黒川浩明 (有)大阪アーティスト協会 取締役会長
(特)関西音楽人クラブ 理事長
向後由美 (株)せきれい社 「サラサーテ」編集部
小林信一 (一財)合唱音楽振興会 理事
斎藤茂 OTTAVA(株) 代表取締役社長
佐々木真二 横浜みなとみらいホール チーフプロデューサー
佐々木仔利子 (特)日本室内楽アカデミー 理事長
志村嘉一郎 ジャーナリスト、元浜離宮朝日ホール支配人
寺田有佑 (株)日本アーティスト 代表取締役
中根俊士 (株)東京アーティスツ 代表取締役
中村由美子 リモージュコンサート(株) 代表取締役
野島友雄 (株)タクトミュージック 代表
萩生哲郎 ナクソス・ジャパン(株) デジタル事業部
橋本伸一郎 (株)いちべる 代表取締役

原浩之 (株)白寿生科学研究所 代表取締役社長
Hakuju Hall 支配人
平井満 横浜楽友会/鶴沼室内楽愛好会 代表
松崎三恵子(株)シド音楽企画 代表取締役
松本京子(有)おふいすべガ 取締役
丸田朗 (有)マルタミュージックサービス 代表取締役
村上雄一 (株)ユーラシック 代表取締役
村田亨 (株)テレビマンユニオン エグゼクティブプロデューサー
藪田益資 クラシック・ニュース プロデューサー
吉井實行 (有)シュリック
吉岡志真 (株)たつみ 代表取締役

代表幹事 中根俊士
副代表幹事 吉岡志真
幹事 梅津知美 村上雄一
中村由美子 橋本伸一郎 丸田朗
監査 平井満
参与 藪田益資
事務局長 橋本伸一郎

音楽プロデューサー協会
〒165-0033 東京都中野区若宮2-33-5
TEL:050-3337-7639 FAX:03-5373-7760
E-mail:info@ichibell.net (株)いちべる 内

2023年3月現在